

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	10
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		4
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
1. その人らしい暮らしの支援		5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		23

事業所番号	1471900868
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム
訪問調査日	令和7年3月19日
評価確定日	令和7年4月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900868	事業の開始年月日	平成11年10月1日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	株式会社 小林留次郎商店		
事業所名	グループホーム チェリーホーム		
所在地	〒239-0802 横須賀市馬堀町2-13-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員 計	8 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和7年3月9日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が、重度になられても安心して入浴できる入浴設備が設置されており、シャワー浴とは違って、湯船でゆっくり身体を温めることが出来、心身共にリラックスする事が出来る。ホームで機能訓練の一環（上肢筋力強化）としてボッチャゲームを廊下を使って行っている。3月にボッチャ大会があるのでホームから選抜されたご利用者様が参加することになっているので、ホームのご利用者様とスタッフで、楽しみながら応援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月19日	評価機関 評価決定日	令和7年4月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社小林留次郎商店の経営です。同法人は横須賀市と三浦市でグループホームを3か所、デイサービスセンター、リハビリデイサービス、小規模多機能型居宅介護支援の事業所を各1ヶ所ずつ経営しています。「グループホームチェリーホーム」は、平成11年に開設し、今年で25年目を迎え、横須賀市内でも歴史と実績ある事業所です。開設当初から浴室にリフト浴、階段に昇降リフトが設置され、重度化を見越した先進的な設備を完備したグループホームです。昨年浴室に設置しているリフト浴、ビルの入口から玄関に設置されていた昇降リフトがリニューアルされ、安全面や使い勝手も向上しています。立地は京浜急行「馬堀海岸駅」から徒歩約5分、幹線道路浦賀通りの3叉路交差点に面した3階建てビルの2階にあります。
●法人代表が横須賀ロータリークラブに参加した際にボッチャを体験し、年齢・性別・障がいの有無に関わらず、誰でもできるスポーツという点に着目し、日常のレクに「ボッチャ」を取り入れています。横須賀市内でも介護予防としてボッチャの普及活動と合わせて大会が開催されており、事業所でも廊下を活用して、機能訓練の一環（上肢筋力強化）を兼ねて練習を行っています。初めて出場した大会で12チーム中9位という成績でしたが、今後も継続して行きたいと考えています。
●食事は日常生活において、最大の楽しみであり、生活の質を高めたり、生きがいを創出するにあたり必要不可欠な要素であることから、代表は、美味しい食事食べていただきたいという思いで、事業所では買い出しと食材業者を併用した食事支援を行っています。朝・夕は業者から発注した物を提供していますが、昼食はおかずを1品量を増やし、職員が手作りしたおかずや、業者から届いた食材にアレンジを加えるなどして、利用者の嗜好に合わせて味付けにすることで完食していただけるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム チェリーホーム
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはホームでのスタッフ会議の際に常に取り上げて介護の基本となる「ゆっくり・楽しく・一緒に」を基本にケアに取り組んでいる。	理念を玄関と事務所に掲示し、職員や来訪者の目に留まりやすいようにしています。入職時には代表から伝えるとともに、理念を配布しています。理念として5項目を挙げていますが、中でも特に「ゆっくり・楽しく・一緒に」を基本のケア方針として、職員は利用者一人ひとりの生活サイクルに合わせた支援を心がけています。毎月の会議で理念に基づいた支援が行えているか、振り返るようにしています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事など積極的に参加することは難しくなっております。今は町内会の行事（盆踊り・お祭りなど）に参加して交流をしていきたいと考えています。	矢野津町内会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を入手しています。去年は大津諏訪神社の神輿が隣の公園に立寄った際に、利用者をお連れして記念撮影を行いました。また、その際に盆踊りにも参加しています。法人の代表が横須賀ロータリークラブに参加しており、得られた情報を提供してくれています。ボランティアは、情報があれば積極的に受け入れる方針としています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の問い合わせなどの際にご家族が認知症の親を抱えて困っているケースが多く見学などに来ていただきその時に相談などを含め今後の入所や施設の種類など説明している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括の方、ご家族代表などに参加していただきホームの活動報告、勉強会、意見交換と有意義な時間を共有しサービス向上に活かしている。	民生委員・地域包括支援センター職員・家族・法人代表・管理者・横須賀市職員(年1回)をメンバーとして偶数月に開催しています。事業所の現状や活動状況報告に対するコメント、地域の情報提供、地域包括からは入居者紹介をいただくこともあります。また、介護に関する「勉強会」も継続して行っています。内容は議事録に纏め、自由に閲覧できるようにしています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か疑問があれば直ぐに相談できる関係を築き行政の指導の下サービス向上に努めている。	横須賀市指導監査課とは、法人代表が窓口となつて、介護事業従事者として把握すべき事項の情報収集に努め、管理者に情報を共有しながら適正な事業所運営を行っています。集団指導講習・研修・講習会は、オンライン開催が主となっており、動画視聴で受講しています。生活保護受給者の受け入れを行っている関係で、生活福祉課の職員とも連絡を取り合っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在。身体拘束をどうしても施行しないとイケない全盲のご利用者様が1名おりご家族様にも十分な説明をし納得していただいたのち同意書を作成して期間を区切り拘束をしている。また身体拘束を継続する際には、スタッフ会議において身体拘束廃止委員会を招集して全員の意見を確認したのちご家族に同意していただいている。	現在、全盲の利用者がいる関係で、家族に十分な説明を行い、納得していただいたうえで同意書を取り交わして対応しています。拘束を行っている方を対象に期間を設け、身体拘束に関する説明書・経過観察記録をつけながら毎月のスタッフ会議において検討しています(3ヶ月に1回は家族に報告及び同意書の取り交わしを行っている)。年4回身体拘束廃止委員会を全職員をメンバーとして開催し、車椅子・事例を持ち寄った検討会を行っています。年2回の研修では、指針とマニュアルの読み合わせ・確認を行い理解を深めています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修を受け様々な事例から身体拘束＝虐待となることをホーム全体で理解し「身体拘束廃止推進委員会」を設けスタッフ全員で認識し介護に対応している。	3ヶ月に1回虐待防止委員会を開催し、全職員をメンバーとして、事例・不適切ケア・利用者対応について話し合いを行っています。年1回は高齢者虐待防止の研修を行い、指針とマニュアルの読み合わせ・確認を行うとともに、言葉がけや具体例を挙げた事例検討にて理解を深めています。また、職員がストレスを溜め込まないように話を聴くようにしたり、年1回は自己チェックを行い、虐待防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方でこの制度に該当する方がおられることもあり、制度の重要性も含め、スタッフ会議等で研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に説明し、納得した上で締結するようにしている。この事業を開始して以来、円滑に事業を展開している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に無記名の投票箱を備え付けている。ご家族様の来訪時または電話等で気軽に相談ができる関係を築き常に意見・要望・苦情がある時にはスタッフ会議にて全員で意見をだし改善に向けて検討している。	家族からの意見・要望は玄関に設けている意見箱、来訪時や電話連絡時に近況報告と併せて何うようにしています。家族からの意見・要望は連絡ノートに記入するとともに口頭でも共有し、職員で検討しています。苦情が寄せられた際には、相談苦情事故対応マニュアルに沿って所定のファイルに記録するとともに、代表にも報告する体制となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為、毎月スタッフ会議を開催し、スタッフの意見を尊重し「業務の改善」としての意見や見なおしを行うように努めている。	業務改善や職場環境の活性化を図るためも、日頃から積極的に職員とコミュニケーションを取ることを意識し、連絡ノートも活用しながら意見や提案の聴取に努めています。月1回のスタッフ会議には代表も参加しており、意見や提案を聴く機会を設け、日頃の中で汲み取った内容を議題に挙げて意見交換を行いながら、業務改善につなげています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフには、処遇改善手当を全員に支給しキャリアパスの内容について説明し個々のやりがいの持てる配慮をしている。また個人に合わせた業務体制をとり、職員は理念に基づき自由に勤務できるよう配慮している。	入職時には職務・服務・休暇・給与規程等について説明し、就業規則を周知するとともに、いつでも確認できるよう配布もしています。法人として、処遇改善加算の申請を行い、全職員を対象に改善手当を支給しています。キャリアパス制度の説明を管理者が行い、資格を取った職員には、資格取得の費用を援助し、給与に手当金を支給しています。社員には賞与、非常勤職員には寸志という形で代表から渡されています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人のスキルの向上になるように施設内の普及研修に繋げ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制を取っている。	入職時のオリエンテーションは、代表から理念・ケア方針を伝えるとともに、基礎的な研修を行っています。その後は、業務マニュアルに基づいてOJTを行い、各勤務を経験してから独り立ちしています。勤続年数の長い職員が多く在籍していることから、OJTを担当した職員以外でも、統一した指導が行える体制となっています。入職後は、年間研修計画に基づいて研修が行われ、職員の知識・スキル向上に努めています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通し研修会等に参加していたが、コロナ禍で自由に研修会にも参加できずリモートでの研修にも時間がとれず、外部との交流も難しい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネより、詳細にお話を伺い、特に本人が一番困っている事、不安に思っている事を引き出せるように傾聴し、そのことが少しでも解消され、安心を確保できる関係作りに繋げるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、ご家族様の不安を払拭する事に時間をかけている。特にご家族様の要望や、意向に対してはよく説明をし信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の初期の段階のニーズを適切に把握した対応を行う。ご本人様やご家族様との面談を通じて適切なケアプランを作成し支援体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の大切な基礎ととらえ、一緒に過ごす事を前提に楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合えるような信頼関係を築き、共に支え合えるような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りと写真を送付しており、またご家族様の面会時にはご家族としての心配や不安等を気兼ねなく話して頂き、一緒に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様がこれまで大切にしてきた生活環境やご家族、知人を理解し、いつでも気兼ねなく面会できる雰囲気にも努め居室でゆっくりと過ごしていただいている。	現在は、通常通り面会を受け入れていますが、時間制限・換気・検温・手指消毒の協力を呼びかけています。また、社会情勢や事業所内で感染症が発生した際には随時家族にお知らせして、面会制限を行っています。協力的な家族が多く、面会、家族と外出や一時帰宅される方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームで生活を共になさるにあたり今までホームにいらっしゃった方々との良い関係が築かれるように日々の生活での関わりあいを大切にし時には座る席を交換したりして支援させていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移るような場合は、今後の生活に支障がないように、ホームでの生活状況を通知・共有して頂き、ご本人・ご家族様が問題に遭遇した場合は、全面的に支援する。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度の認知症の利用者からの思いや意向の把握は大変困難苦慮しておりますがご家族様などからの情報や入居前の生活を考慮し意向の把握に努めている。またスタッフが4カ月毎一人のご利用者を担当しその思いを考え気持ちシートを作成して会議で発表している。	入居前面談で、利用者・家族・介護支援専門員から、過去の生活歴・既往歴・趣味・嗜好品・暮らし方の希望など、本人に関する情報を聴き取りながら、アセスメントシートを作成しています。4ヶ月毎に居室担当者を入れ替えながら、様々な視点で利用者に関する情報収集に努め「私の気持ちシート」を作成し、スタッフ会議で発表し、情報を共有しながらケアに反映させています。意思表示や意思疎通が困難な方については、家族・キーパーソンから聴き取りを行い、本人本位に検討しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、個々の歴史や、経過を把握する事は重要である為、ご家族様の協力を得るなどし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援の観点からも、ご利用者様の個々について把握する事は大切である為、日々の会話・行動・癖・心身の状態を注意深く観察する努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	4カ月毎に交代して担当するご利用者に関して月1回行うスタッフ会議のカンファレンスで意見を発表してもらうことと4カ月に1回作成する気持ちシートも反映して介護計画を作成している。	アセスメントシートの情報を基に初回の介護計画を作成し、1～3ヶ月間は心身の状態、生活の様子を見ながら細かく情報を収集し、アセスメントシートの情報と齟齬がないか確認を行っています。齟齬が生じている場合には、3ヶ月を待たずに見直しを行っています。毎月のスタッフ会議で、「私の気持ちシート」・「介護日誌」を基に、ケアカンファレンスとモニタリングを行い、現状に即した介護計画の作成につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日、表情の変化・言葉・様子などの確に個別の介護日誌に記入し、スタッフが情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の要望により一時帰宅、外食の要望があれば、臨機応変に対応している。急変時や医療面でのサポートが必要な場合には、敏速な対応ができる体制をととのえている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しているが町内のお祭りや盆踊り等には参加できていない。地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援、協力頂ける体制作りをしていく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様全員が事業所のかかりつけ医の受診を受けている。月2回の定期往診と24時間オンコールによる体制をとっている。訪問歯科の往診も受診している、	現在は、全員が事業所の協力医療機関(松本内科)を主治医として、月2回の訪問診療を受けています。松本内科とは24時間のオンコール体制を整えており、夜間や急変時にも対応していただくことができます。看護師は週1回、利用者の体調管理や爪切り等の処置をお願いしています。歯科医は無料検診後に、必要な方のみ契約して口腔ケアや治療を受けています。現在、久里浜医療センター(精神科)で受診されている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。そのうえで看護師と情報を共有している。医療連携により受診の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と密に連絡を取り合い退院後に向けてご入居者様のニーズに応じた継続的なケアが提供出来るように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族様と早い段階から話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し、重度の利用者に対しては、主治医の指導の下で適切に対応し、終末期に向けてご家族様との話し合いをその都度設け介護等の対応方針について、介護職員・看護師、主治医を含めたチームで対応するようにしている。	入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」に基づき、事業所の方針を説明するとともに、救急搬送や延命処置等の意向についても確認を取っています。事業所では看取り介護まで行う方針としており、実際に重度化した段階で主治医との話し合いの場を設けてもらい、今後の方針について主治医・家族・事業所で共有しています。看取りに関する研修も毎年行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備や職員が急変や緊急時に対応できるように勉強会の実施をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選任し、毎年度火災や災害等の緊急時に備え、防災避難訓練を年2回以上利用者にも参加してもらい行っている。特に夜間帯は、夜勤者1人になるため夜勤専門の職員にも参加してもらい災害時の避難経路や入居者の避難誘導の仕方を訓練して覚えてもらうようにしている。	火災や自然災害はいつ起こるか予測が出来ないことから、毎年年2回以上の防災避難訓練を行うようにして、全職員が対応できるようにしています。訓練では、通報・消火・避難経路などの手順や方法を確認し、参加できる利用者には一緒に参加してもらうようにしています。備蓄品は2週間分の水と食糧・衛生用品・カセットコンロ・懐中電灯を用意しています。BCPは、現在作成中の段階です。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーが守れるように日々のケアにおいて配慮している。	プライバシー保護・倫理・法令遵守・ハラスメント対策・認知症ケアについては、年間研修項目に取り入れ、利用者の尊厳・人格否定・プライバシーを損ねない対応や言葉かけを学んでいます。理念にも「人としての尊厳を大切にします」と掲げており、利用者一人ひとりの個性・生活歴・人生観などを受容することで、利用者の尊厳を尊重した対応を心がけています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重したケアを心がけている。日常生活の中で選択肢を設けご利用者様自身が意思決定できる環境を整えている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、やりたいこと、希望に沿った支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師を2ヶ月に1度利用しご本人様の希望に沿った髪型にしてもらうなど、その人らしい身だしなみやお洒落の為の支援を行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誤嚥に気を付けながら食事を楽しく召し上がれる様、雰囲気配膳前からつくる様心がけている。食べ易いように調理、盛り付けを食器から気を付けている。	美味しい食事食べていただきたいという代表の思いがあり、職員の買い出しと食材業者を併用しています。朝・夕は業者から発注した物を提供していますが、昼食はおかずを1品量を増やし、職員が手作りしたおかずや、業者から届いた食材にアレンジを加えるなどして、利用者の嗜好に合わせて味付けにすることで完食していただけるようにしています。また、おやつも職員が作った物を提供しており、訪問調査当日は手作りおはぎが提供されていました。食事の際には、職員も同じ空間で食べながら見守りや介助を行っています。行事の時には利用者のリクエストを取り入れた食事を手作りで提供したり、誕生日にはケーキを作ってお祝いしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様1人1人の食事・水分の1日の摂取を把握し、介護日誌に記入し、バランスの良い食事と適切な量の水分が摂取出来るように支援している。重度化と共に、嚥下が困難になっている方には、主治医の指導の下、栄養補助剤を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者様の口腔衛生を保つため歯磨き支援や義歯洗浄のケアを行っている。必要に応じて歯科医師との連携をはかっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄等を排泄チェック表に記録し排泄パターンの把握に努め、さりげない声かけ、トイレ誘導を行い、不快なく排泄出来るように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや状況を把握する為、全員の排泄チェックを行っています。ご自身でトイレに行かれる方はさり気なく確認し、職員の介入が必要な方は、時間や仕草などのタイミングを見ながら声かけと誘導を行いトイレで排泄できるよう支援しています。失敗が続いた方はスタッフ会議で支援方法を検討し、失敗を減らせるように努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等、毎日の生活の中で継続的に対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間が楽しくリラックス出来る時間であるようにスタッフと1対1で気兼ねなく会話など楽しみながら入浴出来るように工夫している。	浴室は十分な広さが確保された造りになっており、開設当初から設置されていたリフト浴も昨年リニューアルされています。重度化した方でもリフト浴を使用することで、最期まで浴槽に浸かいただくことが可能であり、家族からも好評を得ています。入浴は午前・午後問わず週2回を基本としていますが、体調や希望に応じて柔軟に対応しています。入浴後には保湿クリームを塗布して肌乾燥対策を講じるとともに、水分補給をしていただくようにして、脱水症状対策も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安眠できる様に日中の活動量や個々の生活リズムに合わせて休息やサポートをしている。寝具や室温の調整を行い安心して眠れる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に職員はある程度掌握している尚、新しく処方される際には、主治医または薬剤師より解説を受けている。日常の変化や状況については、細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様の特技、趣味を把握することで、生き甲斐に繋がるよう支援している。重度の認知症の方には色々な事を提供し、反応を見ながら楽しめることを見つけていけるように努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの隣には公園もあり気分転換も兼ねて散歩に行くことが出来る。歩行については、不安定なご利用者様には車椅子にのってもらい外出をしてもらう。	開設時に設置した昇降リフトは昨年リニューアルしたことで、通常通り使用できるようになりました。玄関が2階にあることから、車椅子を使用している方や、昇降に不安のある方は、昇降リフトを使用しての外出支援を行っています。近隣の公園に出かけたり、嗜好品等の買い物希望する方は、一緒に駅前の西友に出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ご利用者様が個人で金銭をお持ちになる事は、管理することが出来ないこともありご家族様には説明して持ち帰っていただいている。但しお財布に少額でもお金が入っていないと不穏になられる方もいるので決まった金額を渡して持つてくる事で不安要素も軽減できていると考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をすることで、安心されるご利用者様にはダイヤルを支援すれば会話が出来るので、状況を判断し、ご家族様に協力していただき実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地の良い空間を常に意識し、皆さんが日中過ごす談話室は常に季節感（節分、ひな祭り、端午の節句など）を味わえるようにスタッフが工夫し手作りの飾り付けで皆さんに喜んで貰っている。またご利用者の皆さんも飾りを作るのをお手伝いしてくれて楽しい時間を過ごされています。	玄関、廊下、リビングを含めた共用空間は、皆が集まり過ごす空間であることから、明るく居心地の良い空間づくりを意識しています。また、行事や季節ごとに装飾を変えながら、季節感を感じていただけるようにしています。台所は談話室と同空間である為、食事の支度風景や音・香りも感じる事ができ、一般家庭に近い雰囲気の中で生活が営まれています。温度や湿度の管理は、職員によって適切に管理されています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室の脇には、気軽に腰をかけられるソファが設けてあるので、自由に利用し思い思いに過ごせるような居場所になっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物、写真や気に入った物やテレビ、ラジカセ等を持ち込んでもらいご利用者様それぞれの好みに応じた居室を作り、居心地良く過ごせるよう支援している。	利用者の各居室扉の上に換気窓があり、共用部で点けている 冷暖房の風が入っているようにしている為、居室内の冷暖房を点けなくても快適な室温で過ごすことが出来るようになっていきます。ベッド、箆簞、エアコン、カーテンは完備されていますが、それ以外の物については、入居時に持ち込んでいただくよう説明しています。本人の使い慣れた物、写真や気に入った物、テレビ、ラジカセなどが持ち込まれ、好みに応じた居室作りがされ、居心地良く過ごせる空間となっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不自由な方がトイレ・居室などへご自身で移動する際には、必ずスタッフがその方について見守り介助を行うが、出来るだけ自立した生活が送れるようにスタッフも常に良いケアを話し合い成果を上げている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
チェリーホーム

作成日

令和7年4月17日

〔目標達成計画〕

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	職員の介護に対するスキルに個々の差があるので、それを無くしたい。	全職員が介護に対するスキルアップに意欲的に取り組めるようにする。	・資格取得への意欲につながるような勉強会の機会を設ける。 ・外部研修などを出来るだけ全職員が順番に受講できるようにする。	12ヶ月
2	7	全てのご利用者様に対して「人間尊重」を基盤とした接遇マナーで接することができるようにする。	私たち職員が接遇マナーを守ること、すべてのご利用者様が「人として大切にされている」と感じることができる。	・「接遇マナーを守ること」はご利用者様の人としての価値を守ること」のスローガンを掲示する。 ・個人目標を設定し取り組んでいる。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。